



# concept

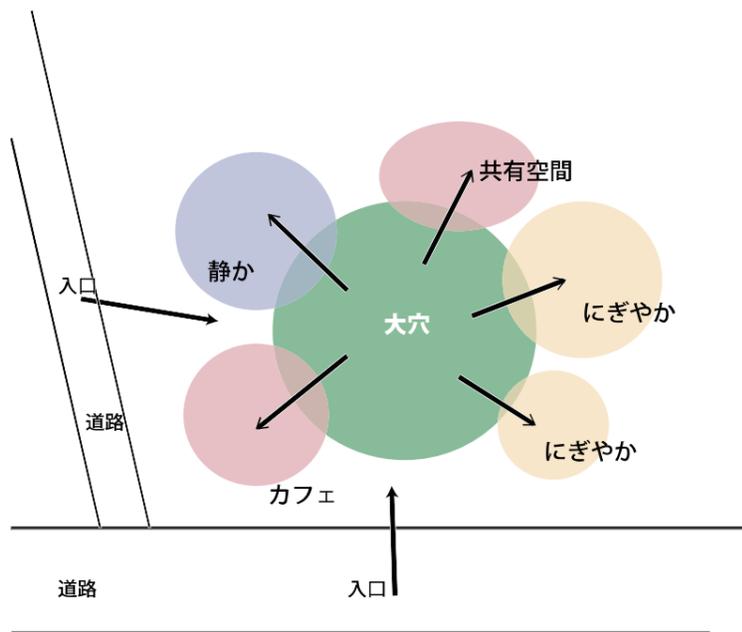
## つくばみらい市に住んでいる「知らないだれかを」つなげる

現状のつくばみらい市

- ・ 都心への通いやすさからベッドタウンとして人口が増加している
- ・ 地域によって便利な場所と便利でない場所が全然違う
- ・ 高齢者の増加



- ・ 災害時などの緊急事態の対応が迅速になる
- ・ 今まで出会わなかった人々が挨拶をする程度の緩やかな繋がりを作る
- ・ まだあまり発展していない地域の利便性を高める

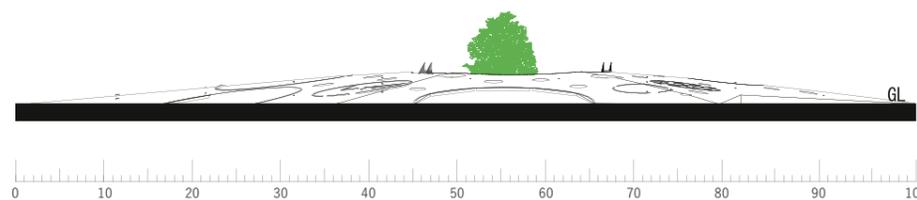


建物の真ん中には、「大穴」があり、この空間からすべての場所に行き来できる。そのため、違う目的で訪れた方々が、顔を合わせる空間になっている。

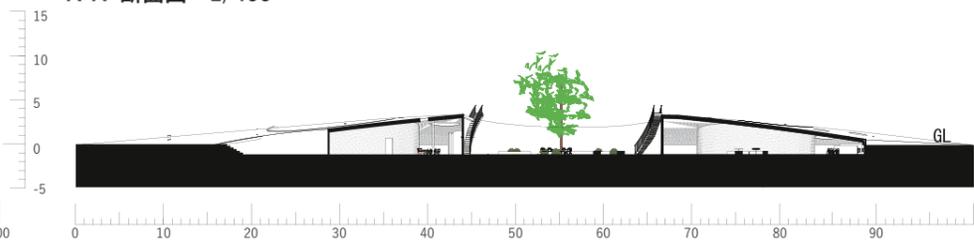
街の人々がつくばみらいに溶け込んでいる様子を建物に落とし込んで周りの自然と馴染むように屋根の形状を地形のような形にした。



立面図 1/400



A-A' 断面図 1/400



# 一 建築概要 一

この施設は、地域の暮らしに寄り添う建築として、多世代が自然と集まり、学び、交流できる複合コミュニティ施設。屋根の上に広がる屋上広場、光が降り注ぐラウンジ、迷路のように巡る図書館、まちの販売所、子どものたまり場、など多様な機能を緩やかに繋いだ建築として計画されている。新旧住民が日常的に混ざり合い、互いの存在を感じながら過ごすことのできる空間構成は、地域の抱える問題や交流不足を解消し、新たな文化や関係性を育てる土台となる。未来の街づくりの中心として機能していくこと目指している。



## カフェスペース

ここで購入したコーヒーを片手に建物を回れる



## 子どものたまり場

ここも天井に大きく開口を設けており、自然光が降り注ぐ半外部的な青ベル中庭。周囲はガラス張りとし、他の場所からも子どもの様子を見守ることができる。



## 大穴

ここは、大きなガラス張りの中庭。施設内の中心に位置しており、建物内のすべての機能を利用している人々が集まってきたり、周辺を歩いたり、横断する。交差点のような役割を任っている。

平面図 1/600

